

建設防災 ボランティアニュース 第85号

目次

- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 寄稿 「日本の可動橋王」
「もう一つのボランティア」
- ・ 子供達のミニツアー
- ・ 新入会員の紹介

酷暑のなか河川愛護月間行事スタート

今年も河川愛護月間の各イベントが、7月6日の「環七地下の巨大トンネルを体験」を皮切りにスタートしました。

今年は9つの行事に参加予定ですが、酷暑が続いた8月末までに「黒目川-わくわく川掃除」、「夏休み多摩川教室」、「川のパネル展」、「川を考えるシンポジウム」と5つの行事が終わりました。参加していただいた会員の皆様、酷暑の中、本当にご苦労様でした。

残された行事は「川を歩こう」-多摩川、旧中川、隅田川、石神井川の4つが10月に予定されています。各担当事務所の協会員の方は、これまでの豊富な経験をもとに参加都民の方へ貴重な話題を提供し、川の防災と愛護精神を高めてください。

河川愛護月間行事担当 高橋紀男

「東京の川を考えるシンポジウム」

7月24日 於:都民ホール&web

今年のシンポジウムは、政策研究大学院大学教授知花武佳氏の「川を知り、川に関心をもって、川を見て、そして川と関わる」をテーマとした基調講演と気象予報士・片山美紀氏の「川と安全に付き合うために、増加する気象災害から命を守る」をテーマにした特別講演でした。

小池都知事の主催者挨拶(ビデオメッセージ)に始まり、知花先生の基調講演では、地質の話や水難事故が起こりやすい場所・川の特徴、護岸構

主催者挨拶(小池都知事)



造による川への評価の違い、低平地河川の水質環境(スカム対策)など多岐にわたりました。

最後に、「人々に関心を持たれず使われもしない川は魅力がなくなり、恩恵にも危険性にも気づきにくい。利活用は川の魅力向上にも防災意識の向上にも必要である。また、川の個性と地域の個性、とりわけ地理的歴史的文脈を捉えて、川とまちのあり方を一体で考えなければならぬ。行政任せでも、どこかの好事例をまねしても良い水辺にはならず『産官学民連携』は不可欠である」とのお話しでした。



知花武佳氏

特別講演の片山氏からは、川と安全に付き合うために警戒したい現象として「局地的大雨(都内)ゲリラ豪雨」、「線状降水帯」、「台風」についての



片山美紀氏

詳しい説明がありました。また、雲の種類や発生のメカニズム、大雨のサイン、そして大雨時の注意事項のほか、普段から知っておくべきハザードマップや自宅周辺の川の状況など防災情報の活用方法等のお話しがあり、最後に「川のリスクを知る、最新の気象情報の活用、早めの避難、ハザードマップの活用が重要」とのお話しでした。

担当理事 西村行正

『環七地下の

巨大トンネルを体験』！！

7月6日に「環七地下の巨大トンネルを体験」が開催されました。環状七号線の地下およそ40mに設置されている「地下調節池」を見学する恒例の人気のプログラムで、主催の第三建設事務所さんのお話では実に15倍の抽選(東京マラソンより厳しいらしい)を突破された総勢166名の方々が参加されました。参加者はまさに老若男女、小さなお子様連れのご家族での参加も多く、幅広い人気ぶりが伺えます。



開催日は「川の日」(7月7日)の前日、つまりは梅雨の真ただ中ではありましたが、時折お日様も顔を見せる好天(でも暑かった～)のもと、4班に分かれて、「いざ巨大トンネルへ!」。行程は、施設概要・模型及び監視室操作の説明に続き、地下トンネルを見学。地上に戻ってからは、水圧扉や高所作業車体験など盛りだくさん。

今回は、職員お手製のプロジェクションマッピングの投影等、新しい企画も工夫され、多くの方が大満足のご様子で現場を後にされました。建設防災ボランティアからは、望月裕さんと私、島津哲也の2名が参加し、河川事業のパンフレットや参加記念グッズの配布、



アンケート記入のお願い、回収などのお手伝いをさせていただきました。

アンケートでは「水害対策の最前線。普段見れない場所を見ることが出来て良かった」、「個別の質問にも丁寧に対応いただき、土木学生にとっても有意義だった」、「このような施設の整備運用があって、市民の安全が守られていると再認識した」等々、たくさんの声を聴かせていただきました。



「これからも都の事業を広く都民に知らせる機会を作っていただけると助かります」とのご意見も。今回のような、施設に直に触れていただく「現場体験会」



の重要性、有効性を改めて認識した一日でした。参加者の皆さん、三建の皆さん、お疲れさまでした!

また来年も、よろしくお願い致します。

三建班 島津哲也



島津さん 望月さん

「わくわく川掃除＆川あそび」

に参加しました。

7月21日曜日、北北建班の4人（吉原、小川、地引、奥秋）が東久留米市の黒目川の神山大橋から門前大橋の区間、北北建細見所長をはじめ上村工事二課長他所員の皆様、河川部の皆様とともにわくわく川掃除に参加しました。

予想どおりの猛暑の中、例年以上に草が生い茂る黒目川低水敷きを下流から上流に向かい、左右岸に分かれて清掃作業を開始。午前中にも



かかわらず強い日差しと昨晚までの豪雨でたっぷり湿った岸からの、むせ返るような湿気を体中に浴びながらボランティア活動に勤しんだのでした。この間、ほかの3人の頭の中にも、駅前中華屋の生ビールと餃子の映像が流れていたことでしょう。

清掃作業は、案外ごみの量もほどほどで、早めに予定区間を終了。お約束の記念写真撮影後、我々ロートルは現役の皆さんとお別れし、お楽しみの駅前へ。現役の皆さんはこのあと続けて



川遊び行事のお手伝いです。ご苦労様です。

我々は、照り返しの強い道のを喉の渇きを覚えながら、やがて来る口に広がる快感を糧に駅までテクテク。ところが、なんと、店には臨時休業の張り紙が。大きな衝撃でしたが、すぐに、じゃ、駅横串揚げ屋でとメンバーの一人。

なんと切り替えが早いのでしょうか。慣れてますな～と感心。お疲れ乾杯のあとは昼食をかねてあれこれ頼んで、しめは何故か自分で焼きたこ焼きでした。

毎年同じような光景が繰り返されている気がします。これもリタイヤ人生の楽しみなのでしょうか。来年もまた皆さんが元気に、この活動の場に集まれば、と思う次第でした。

北北建班 奥秋聡克



暑い暑い

夏休み多摩川教室 でした

令和6年8月21、22日の2日間、多摩川流域協議会主催（国交省、東京都、神奈川県、山梨県及び多摩川流域の市区町村）の「夏休み多摩川教室」が、川崎市高津区二子付近の多摩川河川敷で実施され、建設防災ボランティアから2名（清水、佐野）が参加しました。

今年は、我がボランティアは1日1名午前中のみの対応となり、歳を重ねたOBには優しい



取り組みとなりました。東京都は連日、河川部各課から5名、土木技術支援・人材育成センターから2名の体制でした。

日差しが強く気温 35℃で蒸し暑い日となり、参加される方が少ないのではと思っていましたが、多くの家族連れに来ていただきました。特に、子供達が「川の中の水の流れを調べてみよう」の模型に興味を持ち遊ぶことから、模型



に近づけるようテーブル等のレイアウトを変更しました。

22日は前日の大雨の影響で、展示テント及びテント内も水浸しの状況で、活動を行うには良くないコンディションで、また、10時30分頃から大雨と遠くに雷が鳴る天候となり、来園者も含めテント内にくぎ付けになってしまい



ました。11時30分頃には太陽が出て暑くなり、チラホラ、家族連れの方々や子供たちも来訪し、模型で楽しんだり説明に耳を傾けたり、和気あいあいの雰囲気でした。



土木技術支援・人材育成センターの香月所長と河川部計画課の狩野課長代理、扇さんが視察に見えられ、スタッフの活動に対する労いと共に来客対応状況や会場の様子を確認されました。

2日間を通して、現役の皆さんの元気な活動姿が頼もしく感じられました。これからも川に興味を持って貰える活動の支援をしていきたいと思います。

五建班 清水幸一

「川のパネル展」

8月27日～29日・二庁1F

今年度河川愛護月間行事の一つである、川のパネル展のお手伝いを初日前半にさせていただきましたので、ご報告いたします。

今年の会場は、例年の新宿駅西口地下広場が貸してもらえなかったため、都庁の第二本庁舎一階展示スペースでの開催となりました。そのためスペースが限られ、いつもの立体模型を数多く展示できないなど、河川部の皆様も大変ご苦労されておりました。



8月28日



都庁舎という場所であるため、お客様も限られますが、熱心に見学された母娘や、専門家と見受けられる男性、色々質問される年配の方、さらにPRキャラクターのかわいこちゃんファミリー顔出しパネルで撮影されるご家族やギャルもいました。河川部長もお忙しい中、見に

8月27日



それでも、例年の川のフォトコンテスト応募作品アンケートや土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール受賞作品の展示をはじめ、荒川通水100周年の記念展示、川を歩こう、東京の河川事業などの河川部の展示、神田川上流懇談会、都市整備部や東京都公園協会等関係団体の展示、英語・中国語・韓国語の展示等、内容も多彩でした。河川事業を都民に幅広く理解していただくために、欠かせないイベントであると思います。

8月29日



来て私達と写真撮影等していただきました。

河川部では、来年に向けて、河川愛護月間行事全体のさらなる改善を検討されているとの事でした。関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、より良い内容にグレードアップされる事を期待し、報告とさせていただきます。

二建班 松浦いづみ

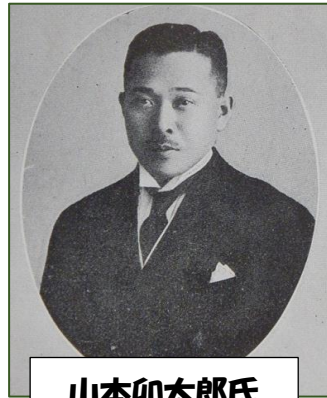
〈応募作品の展示と来場者による投票〉



日本の可動橋王

昭和のはじめ、「可動橋王」と呼ばれた橋梁技術者がいました。山本卯太郎。生涯で十数橋もの可動橋を設計し、「山本工務所」という機械・橋梁会社を率い、製作や架設も行いました。

卯太郎は、1891(明治24)年6月15日に大阪で生を受けました。1914(大正3)年に名古屋高等工業学校(現名古屋工業大学)土木科を卒業し、翌1915(大正4)年に渡米し、当時世界最大の橋梁メーカーであったアメリカンブリッジカンパニーに入社します。ここで、シカゴを中心に米国各地で建設が進められていた可動橋の設計や製作に従事し、その技術を取得。その傍ら、イリノイ大学やアーマー大学で橋梁の研究も行っています。



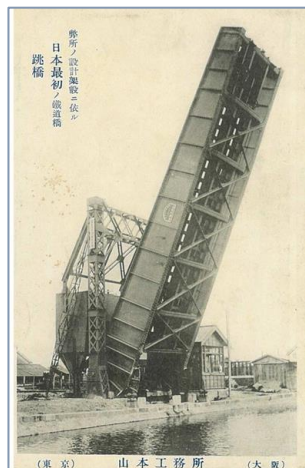
山本卯太郎氏

1919(大正8)年に帰国すると、東京に可動橋を専門に設計・施工する山本工務所を起業します。もちろん、可動橋に特化した橋梁会社は国内で初めてでした。「山本式」と呼ばれる跳開式可動橋(バスキュール型)の特許を取得、その後、名古屋や大阪にも出張所を設け、朝鮮にも事業を拡大しました。

卯太郎が建設した橋をご紹介します。

① 隅田川可動橋

記念すべき、山本工務所第一号橋梁。1926(大正15)年に竣工した。南千住にある貨物の隅田川駅から、隣接する日本石油の油槽所へ専用鉄道を引き込むため、両者を隔てる運河上に架設された鉄道橋。コンペにより採用。橋長 18.9m、



幅員 4.5m。

② 古川可動橋

港区を流れる古川の浜崎橋の下流に架設された芝浦臨港鉄道の橋梁。現在ゆりかもめが通る新浜崎橋の地点に架設されていた。可動桁長 27.3m、鉄道橋。1929(昭和4)年に竣工した。当時、東洋一の跳開橋と謳われた。芝浦臨港線の廃止に伴い 1985(昭和60)年に廃線、直後に桁が撤去され、その後ゆりかもめの工事で橋脚、橋台も撤去された。



③ 名古屋港跳上橋

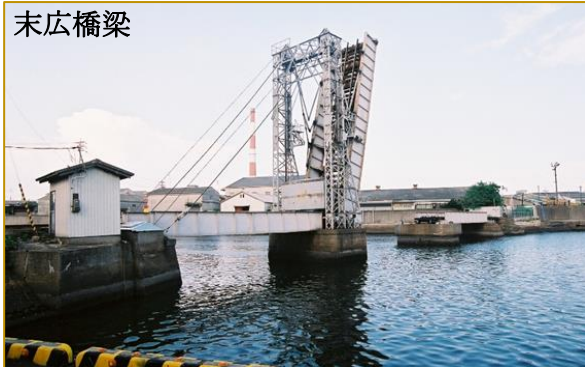
名古屋港の堀川河口に架かる。東海道本線の貨物支線として、1927(昭和2)年に架設された鉄道橋。1985(昭和60)年に廃線となったが、桁を跳ね上げた状態で保存されている。可動桁長 23.8m。跳開橋としては現存最古である。



④ 末広橋梁

三重県四日市港の末広運河に架かる。1931(昭和6)年に架設された、国内で現役唯一の鉄

道可動橋。1998(平成 10)年に可動橋として初めて国指定重要文化財の指定を受けた。ウインチ巻き上げ型の跳開橋である。橋長 58.0m、可動桁長 17.6m。現在1日に5回開閉を行っている。200m南には車用可動橋の臨港橋(1991 年架設)が隣接して架かる。



⑤ 島屋運河1、2号橋

大阪市此花区の旧島屋運河に架設されていた。1926(大正 15)年架設。写真手前は国鉄西成線(現在:ゆめ咲線)の鉄道橋、奥は道路橋(正安橋)。1999(平成 11)年にUSJ建設に伴い撤去されたが、正安橋は近くの中島新橋の高架下に鋼材が保管されている。橋長 48.9m、可動桁長 17.6m。



⑥ 栄橋

香川県坂出市の日清製粉坂出工場正門前に架設された道路橋。可動桁長 9.7m、幅員 3.6m。1928(昭和3)年に竣工した。ウインチ巻き上げ型の跳開橋。1961(昭和 36)年に運河埋め立てに伴い撤去された。

この他にも、徳島や朝鮮の可動橋の建設に携わる傍ら、母校で橋梁工学の教鞭に立っていました。名声も得て順風満帆の最中、突然に死が訪れます。1934(昭和9)年 4 月 20 日に倒れ不帰の人と

なりました。享年 42 歳。突然の、そして余りにも早い死でした。土木

雑誌の『土木建築工事画報』では、訃報を伝えた記事を以下のように結んでいます。「氏が我国における可動橋の発達に画された偉大なる功績は誰も認めるところで、かけがえのない人を失ったという哀しみがひしひしと迫るのを覚える」。

卯太郎は、1930 年に勝関橋の計画案が公表されたことを受けて、土木雑誌『エンジニア』に「築地月島間連絡可動橋(勝関橋)に対する私見」という論文を寄稿しています。この中で、双葉式の可動桁について、単葉式に比べ可動装置が2倍になり不経済であること、2つの可動桁が合わさる中央部は剛度が小さいため振動が大きく、繋ぐロックはこれにより壊れやすいことなどを上げ、単葉式にすべきと述べています。現在、バスやトラックが通行した際の、橋中央部の振動は、以前よりかなり大きくなっていると感じている方が多いと思います？この勝関橋の弱点を、卯太郎は建設前に指摘していたのです。

2024 年5月 23 日、卯太郎のひ孫で愛知県にお住いの高田直子さんとお嬢さんが、勝関橋の橋脚内ツアーに参加されました。勝関橋が完成した時、既に卯太郎は鬼籍に入っていました。卯太郎は見ることがなかった勝関橋について、お二人は帰宅されてから卯太郎に報告されたのではないのでしょうか。それにきつと卯太郎はこう答えたと思います。

「お爺ちゃんならもっと良い橋を架けたよ。だって可動橋王だぞ」

東京都道路整備保全公社

紅林章央



寄稿

～ もう一つのボランティア ～

それは森林インストラクター活動です

子供のころから野山や川遊び等自然の中での活動が好きで大学時代(農学部)には旅行、登山に明け暮れ、結婚・子育て時代も家族でキャンプ、ハイキング、旅行によく出かけていました。試験科目が「森林」「林業」「森林内の野外活動」「安全及び教育」ということから趣味を活かしながら社会貢献ができるかもしれない？と、制度創設時から関心を持っていましたが、当時は公園緑地部に在籍中で仕事中心？のため第二の人生でボケ防止として続けられたらいいなと思っていました。70歳でサラリーマンを卒業するのを機に思いが叶い2018年1月1日登録(69歳)することができました。



森林インストラクターとは「森の案内人」です。自然や森林のしくみ、森林づくりと林業、森林内での活動、教育の方法、安全対策などについて知識と技術を持っており、森を訪れる皆さんが、心地よく過ごし、楽しみ、感じ、森林や樹木とその役割について深く知ることができるよう、さまざまな活動を通してお手伝いをします。環境教育等促進法の「人材認定等事業」として、一般社団法人全国森林レクリエーション協会が実施する森林インストラクター資格試験に合格し、登録すると付与されます。(一般社団法人日本森林インストラクター協会 Forest Instructor Association of Japan = FIJ ホームページより)

制度がスタートした1991年度からこれまでの認定者総数は5千名弱ですが現在の会員数は全国で約3千名、東京会約350名となっています。その活動は多岐にわたっています。活動内容については森林インストラクター東京会 Forest Instructor Tokyo (=FIT) ホームページをご覧ください。

私はFITに所属して林野庁との協定イベント「森林ふれあい推進事業」や学校から依頼される「登山教室」などのスタッフとしてガイドをしてきました。中でもFITが主宰する「高尾山 GREEN CLEAN 作戦」にはまってしまいました。高尾山をフィールドとして一般の方と会員を対象に自然観察や清掃活動を行います。奇しくも東日本大震災の年にスタートして13年目を迎えました。

ご案内の通り高尾山は高尾国定公園という自然公園となっています。ゴミ箱を撤去してゴミの持ち帰りが定着しています。そんな高尾山では当然？ゴミは目立たないのですが、飴玉の包み紙や団子の串、爪楊枝、マスクなどのゴミはまだ拾うことができます。

こんな清掃活動にはまった原点はどうやら小笠原赴任にあるようです。1979年4月から1981年3月まで小笠原支庁土木課自然公園係員として小笠原国立公園にお越しのお客様が快適に利用してもらうためルールを守っていただけるよう島内パトロールやビーチのゴミ拾いなどを行っていました。森林インストラクター活動を行う際はお客様の安全に配慮しつつ気負わず一緒に楽しみながら自然体で接する様心掛けています。

小笠原での経験が活かされています。小笠原に感謝！ 小笠原万歳！

西部公園班 丹野 修



高尾山山頂より
富士山を望む

「子供たちの

勝どき橋ミニツアー」

夏休みに入り多くのお子さん達が勝どき橋ミニツアーに参加してくれました。みんな元気で、ガイドの話にも熱心に耳を傾けていました。今回はその子供達に感想文をお願いしたところ多くの絵・イラストを送ってくれました。ありがとうございます。

勝どき橋を知るには一時間半では少し短かったでしょうから、また来てくださいね。

【7月25日】

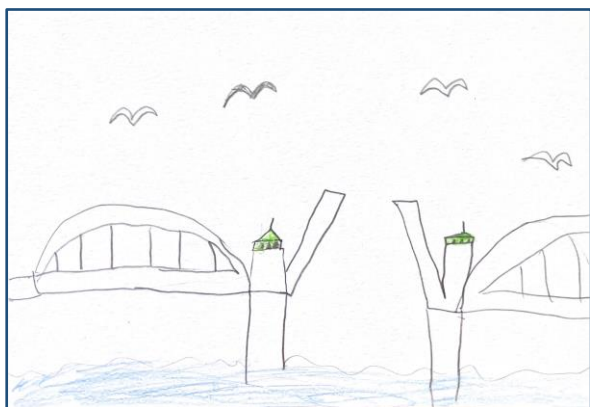
このたびは勝ちどき橋を見学させていただき、どうもありがとうございました。

まさか川の下まで潜れるとは思っておらず、操縦室の計器なども見て触れることができ貴重な経験となりました。

「今まで何とも思っていなかった橋なのに橋の歴史を知れて良かった」と子どもも喜んでいました。描いたイラストを送ります。

野田万玲

《墨田区立菊川小学校 5年 野田新平くん》



【7月25日】



【8月8日】



子供会で培った根津さんの話術で楽しくお話が聞けました。

【8月29日】

《小学校4年 西田和駿 くん》



勝ちどき橋
楽しかったこと

勝ちどき橋のバックヤード(下)を降りるまでのキャタツが楽しかったです。

勝ちどき橋のバックヤードが特に楽しかったです！

学べたこと

勝ちどき橋は、ネジではなく、円形金具(名前がわかりません)使っていること。

勝ちどき橋は、1000トンだから重りも、1000トンと、しりました。

勝ちどき橋

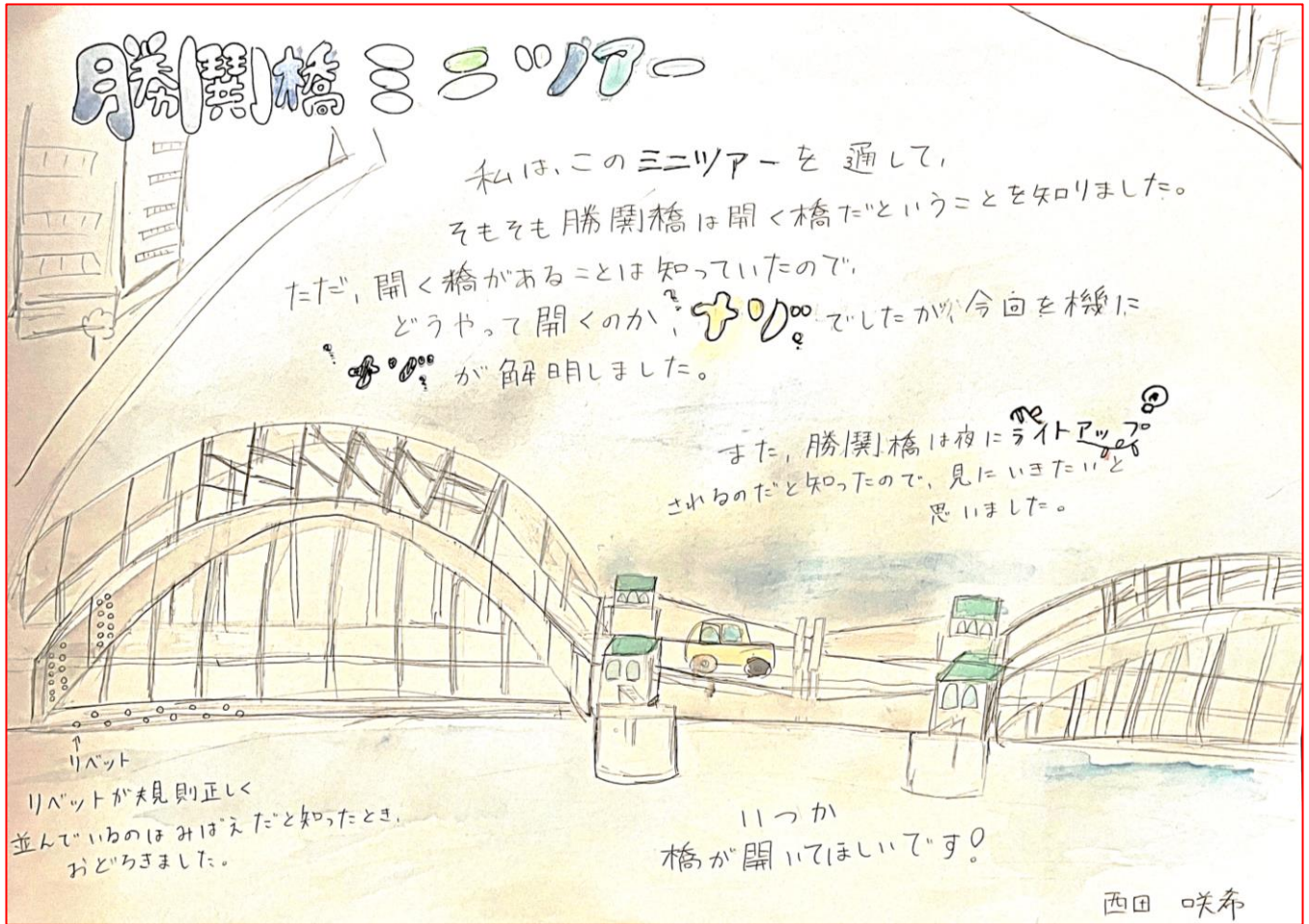
ありがとうございます！

分からなかったこと

勝ちどき橋のモーターの役目、円形金具のなまえが一度で覚えきれませんでした。家で調べて、リベットとわかりました。

小4 西田 和とし

《小学校6年 西田咲希 さん》



《荒川区立第一中学校2年 井上桃花さん》

かちどき橋がまた開くといいな、という思いで書きました。いつか橋が開く日があれば、必ず見に行きたいと思います。

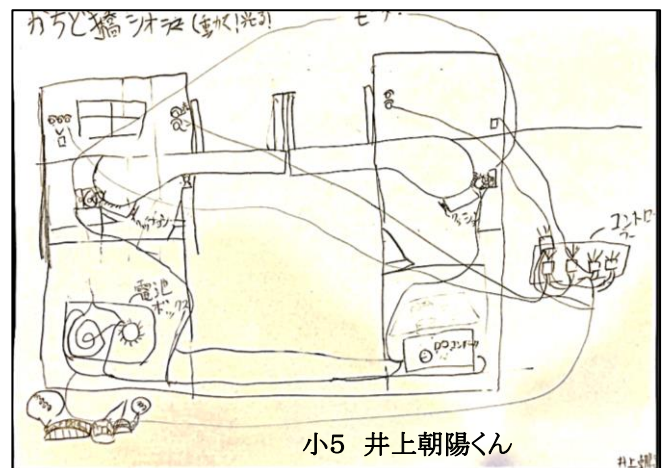


《荒川区立第六小学校5年 井上朝陽くん》

勝鬨橋のジオラマを作る際の設計図です。配線も自分で考えました。

今回、初めて橋の下に入って、大きな歯車や主軸を見ることができてとても興奮しました。

自分でもジオラマを作りたい、作ったら資料館に持っていきたいと思います。



Phot Memory



リベットは強度だけでなく見栄えよく配置するよう設計したという話に興味津々



新会員のご紹介

〈藤田政彦さん〉

本年3月末に技術管理課を最後に都を退職し、現在大成ロテックに勤務しております。協会では希望通り五建班に加えて頂きました。実は在職中に何度も希望しながら、五建配属の経験はありませんでした。いざというときにお役に立てるよう、準備してまいります。そのためと言えば聞こえは良いですが、週末には趣味のゴルフを続けており、体力維持も兼ねて、なるべくカートに乗らず、芝生を歩きながらリフレッシュしています。



日本全国では、毎年大きな災害に見舞われていますが、東京も例外ではありません。首都直下地震や激甚化・巨大化する台風も脅威です。災害からいかに早く「通常」を取り戻

すか、取り戻せるか、ということが肝要です。民間一年生ですが、少し慣れてきましたらボラン



ティア活動に積極的に参加させて頂くとともに、全国の被災地にも駆け付けられたらと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



協会からのお知らせ

① イベント等の開催予定

- ・10月12日(土) 川を歩こう旧中川コース
多摩川・奥多摩コース
- ・10月19日(土) 川を歩こう隅田川コース
石神井川コース
- ・11月8日(金) 勝どき橋ミニツアー研修会
15時～17時 道路整備保全公社17F
講師;道路整備保全公社 紅林課長

※詳細は別途お知らせします。

② 各班からの活動報告、皆様からの寄稿を心よりお待ちしております。ぜひ下記編集担当理事又は西村まで原稿をお送りください。

西村アドレス(iwana-246ra@outlook.com)

③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)に、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っています。ぜひご覧ください。 アドレス(<http://tokyo-adv2.info/>)

パスワードは、「kyokuhou」です。

編集後記

暑い夏のオリンピック、パラリンピックが終わりましたが、異常な猛暑はお彼岸まで続きました。

今年の7月、8月の2ヶ月間で東京では30度超えの真夏日が54日、35度超えの猛暑日は19日を記録しました。

時間100ミリ超えのゲリラ豪雨も全国的には日常となっています。地震を含む様々な災害リスクの増大するなか、日頃からの備えが肝要ですね。(YN)

発行人 山口明

発行 東京都建設防災ボランティア協会
〒163-0720 新宿区西新宿 2-7-1

新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、西村行正、
林幹生

